

単元1.〇〇文化～6.〇〇の戦い

□次の事柄と最も関連の深い歴史用語を答えよ。

- 1 狩りや漁、採集の生活が中心。縄文土器や磨製石器を使用し、土偶や貝塚が特徴。竪穴住居に住み、代表的な遺跡として三内丸山遺跡。
- 2 稲作農耕を中心とする生活。青銅器や鉄器を使用し、土器は弥生土器。環濠集落や高床倉庫が特徴。吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡が代表的な遺跡。
- 3 渡来人が漢字や仏教などを伝えた。大規模な前方後円墳が作られ代表的な古墳は大仙古墳。副葬品として埴輪や武具、装飾品が出土。
- 4 日本最初の仏教文化。寺院建築や仏像彫刻が発展し、法隆寺や飛鳥寺が代表例。
- 5 奈良時代の高度な仏教文化。仏教美術や建築が発展。東大寺の大仏や正倉院宝物が代表例。万葉集や古事記、日本書紀など文学も栄えた。
- 6 日本の風土や日本人の感情に合った貴族文化。文学は源氏物語や枕草子、古今和歌集。寝殿造や平等院鳳凰堂の建築様式。
- 7 力強い武家の文化と優雅な公家文化。文学では平家物語、方丈記、徒然草。芸術では運慶・快慶による東大寺南大門の金剛力士像。
- 8 金閣寺（鹿苑寺）が象徴的建築物。能楽が発展し、観阿弥・世阿弥が活躍。
- 9 銀閣寺が象徴的建築物。茶の湯や華道が発展し、侘び寂びの美意識が重視された絵画では雪舟などが活躍し、水墨画が広まった。
- 10 豪華で壮麗な文化。戦国武将たちが築いた城郭建築が特徴で、姫路城や大阪城が代表。茶の湯が千利休によって大成。絵画は狩野永徳が活躍。
- 11 江戸時代の上層中心の町人文化。浮世草子の井原西鶴、俳諧の松尾芭蕉、人形浄瑠璃の近松門左衛門。浮世絵も発展し、菱川師宣が有名。
- 12 江戸時代後期の町人文化。都市文化が発展し、浮世絵の葛飾北斎や歌川広重が活躍。杉田玄白の解体新書、本居宣長の古事記伝。
- 13 672年に起きた日本史上最大の内乱。天智天皇の死後、皇位継承をめぐり大海人皇子と大友皇子が対立。大海人皇子が勝利し天武天皇となる。
- 14 平安末期に発生した内乱。鳥羽法皇の死後、勢力争いを背景に後白河天皇側と崇徳上皇側が対立。武士台頭のきっかけとなる。
- 15 平安時代末期に発生した内乱。保元の乱後の権力闘争が背景にあり、源義朝と平清盛が対立。平清盛が勝利。源頼朝は伊豆に流される。

 縄文文化

 弥生文化

 古墳文化

 飛鳥文化

 天平文化

 国風文化

 鎌倉文化

 北山文化

 東山文化

 桃山文化

 元禄文化

 化政文化

 壬申の乱

 保元の乱

 平治の乱

16	鎌倉時代の1221年に起きた内乱。後鳥羽上皇が鎌倉幕府打倒を目指して挙兵するも、北条義時率いる幕府軍に敗北。上皇は隠岐に流される。	承久の乱
17	室町中期に起こった日本全国を巻き込んだ内乱。将軍跡継ぎ問題や細川氏と山名氏の対立が原因。京都は荒廃し戦国時代の幕開けとなった。	応仁の乱
18	江戸時代初期に九州の島原半島と天草諸島で起きた大規模な農民反乱。重税と厳しいキリシタン弾圧に対する不満が原因。指導者は天草四郎。	島原の乱
19	江戸時代後期に大阪で発生。元役人が、飢饉や豪商の不正に対する不満を抱え農民や町民と共に蜂起。幕府の統治能力への疑念を深めた。	大塩の乱
20	飛鳥時代に日本が中国に派遣した使節団。593～618年で計4回派遣。聖徳太子が中国の制度や文化を学ぶために送り出した。小野妹子が有名。	遣隋使
21	7～9世紀にかけて先進的な文化、制度を学ぶため中国に送り出した使節団。阿倍仲麻呂や空海が有名だが菅原道真が廃止にした。	遣唐使
22	平安末期～鎌倉時代に行われた日本と中国との貿易。銅銭などを輸入。港として大輪田泊(神戸)を整備。航海の安全を祈願して、巖島神社が参詣された。関連人物として平清盛。	日宋貿易
23	室町時代に足利義満が行った貿易。勘合符(通交証)を使用し、銅や硫黄などを輸出し、絹織物や書籍、陶磁器などを輸入。	日明貿易 勘合貿易
24	主に安土桃山時代に行われた日本とポルトガルやスペインなどの西洋諸国との貿易。銀や銅などを輸出し、火器や鉄砲などを輸入。関連人物として織田信長、豊臣秀吉。	南蛮貿易
25	江戸時代初期に行われた日本と東南アジア諸国との貿易。貿易には幕府発行の渡航許可証が必要。生糸などを輸入し、銀や銅などを輸出。関連人物として徳川家康。	朱印船貿易
26	飛鳥時代の日本において、646年の大化の改新で導入された制度。土地と人民を国家の直接支配下に置くことで、豪族による私有を禁止し、中央集権化を図ることが目的。	公地公民
27	飛鳥時代から奈良時代にかけて日本で実施された土地制度。戸籍に基づき、一定年齢に達した全ての男女に口分田を均等に分配し、死後に国に返還する仕組み。	班田収授法
28	743年に奈良時代の日本で制定された法令。これにより、新たに開墾した土地は永久に私有できるようになり、貴族や寺院の大規模な開墾が進んだ。	墾田永年私財法
29	奈良時代から室町時代にかけて、日本の貴族や寺社が所有した私有地。中央政府の課税を免除された特権的な土地。領主は、農民からの年貢や労役を徴収し、独自の経済基盤を築く。	荘園
30	安土桃山時代に豊臣秀吉が実施した全国的な土地調査。1582年から1598年にかけて行われ、全国の田畑の面積、収穫量、生産力を詳細に測定し、石高制を導入。測量には共通単位が使われた。	太閤検地

31 1869年に明治政府が実施した政策。全国の大名が支配していた領地と領民を政府に返還させた。中央集権化と明治政府の国家体制強化のための重要な一歩であり、後の廃藩置県に繋がった。

版籍奉還

32 明治時代の日本で1873年に実施された税制改革。土地の所有者が地価の3%を現金で納める制度に変更し、年貢制から地租制へと移行。政府は安定した財源を確保し、近代国家の基盤を強化。

地租改正

33 第二次世界大戦後、GHQ指導のもと実施された農業政策。地主制を廃止し小作農に農地を分配。自作農を増やし、農民の生活向上と農村社会の安定を図った。

農地改革

34 1854年に日本とアメリカの間で締結された条約。江戸幕府とアメリカのペリー提督との交渉により、下田と函館の開港が決定され、日本の鎖国が終わりを迎えた。

日米和親条約

35 1858年に日本とアメリカの間で締結された条約。ハリスと江戸幕府との交渉により成立。条約により、横浜、長崎、新潟、神戸が開港。治外法権の承認と関税自主権の喪失も含まれていた。

日米修好通商条約

36 1895年に締結された日清戦争の講和条約。条約により、清国は台湾、澎湖諸島、遼東半島を日本に割譲し、賠償金を支払い、朝鮮の独立を承認。

下関条約

37 日露戦争の講和条約。条約により、ロシアは南樺太を日本に割譲し、満州の鉄道利権や遼東半島の租借権を日本に譲渡。また、韓国に対する日本の優越権を認めた。

ポーツマス条約

38 第一次世界大戦後の講和条約で、1919年にフランスのパリ講和会議で締結。日本は山東省の旧ドイツ権益の継承が認められた。

ベルサイユ条約

39 第二次世界大戦後の日本と連合国の間で締結された講和条約。1952年に発効。日本は戦争によるすべての領土を放棄。沖縄や小笠原諸島はアメリカの施政権下に置かれる。当時の首相は吉田茂。

サンフランシスコ
平和条約

40 1956年に日本とソビエト連邦の間で署名された宣言。第二次世界大戦後の両国間の戦争状態を終結させ、国交を回復するための重要な文書。ソ連は日本の国連加盟を支持することを表明。

日ソ共同宣言

41 1965年に日本と大韓民国の間で締結された条約。両国間の国交正常化が目的。日本は韓国政府を朝鮮半島唯一の合法政府と認め、韓国に対して経済協力を行うことを約束。

日韓基本条約

42 1972年に日本と中華人民共和国の間で発表された声明。当時の首相は田中角栄が署名。両国間の国交正常化が宣言され、パンダが来日。

日中共同声明

43 1978年に日本と中華人民共和国の間で締結された条約。福田赳夫首相が署名。両国間の平和と友好関係の発展、相互の主権と領土の尊重、内政不干渉の原則、平等互惠の精神に基づく協力の促進。

日中平和友好条約

44 663年に朝鮮半島の白村江で行われた戦闘。日本と百済の連合軍が、唐・新羅連合軍と対峙。日本側は破れ朝鮮半島からの撤退、国防強化を進める。

白村江の戦い

45 185年に山口県で行われた平安時代末期の戦闘。源氏の源義経率いる軍と平氏との間で行われた。源氏の勝利により平氏は滅亡し、源頼朝を中心とする鎌倉幕府が成立。

壇ノ浦の戦い

46 1560年に愛知県で行われた戦国時代の戦闘。今川義元率いる大軍に対して、織田信長が奇襲攻撃をかけて勝利した。信長はこの戦いでの勝利以降、勢力を急速に拡大していく。

桶狭間の戦い

47 1575年に愛知県で行われた戦闘。織田信長と徳川家康の連合軍と、武田勝頼率いる武田軍との間で行われた。織田・徳川連合軍は鉄砲隊を効果的に用いて武田軍を打ち破った。

長篠の戦い

48 1600年に岐阜県で行われた戦国時代最後の大規模な戦闘。徳川家康率いる東軍と石田三成率いる西軍との間で行われた。東軍の勝利により、徳川家康は実権を掌握し江戸幕府を開く。

関ヶ原の戦い

49 1868年に京都近郊で行われた戊辰戦争の最初の主要な戦闘。この戦いは徳川幕府の旧勢力と新政府軍との間で行われた。新政府軍の勝利は、徳川幕府の崩壊を加速させ、明治維新への道を切り開くこととなる。

鳥羽・伏見の戦い
